

ナミビア月報

(2023年10月)

在ナミビア日本国大使館

【内政】

- ナンディ＝ンダイトワ副首相「部族主義はナミビアを破壊する」
- カンジ＝ムランギ高等教育大臣、出張旅費不正請求の疑い
- 衛生設備の不足
- 69万人以上が干ばつ救済を必要としている
- 8億690万ナミビアドルの不正支出

【経済】

- アフリカ初の公共グリーン水素ステーション建設工事を開始
- 燃料価格の上昇続く
- グリーン水素がEUとナミビアの関係を強化
- 警察、Xinfengのリチウムトラックを止めるよう要請
- EU、ナミビアのグリーン水素・原材料セクターに200億ナミビアドルを投入

【外交・対外関係】

- 中国ナショナルデーレセプション 駐ナミビア中国大使の発言
- 第3回 ナミビア・南ア二国間委員会の開催
- ガインゴブ大統領、イスラエル・パレスチナ紛争の中で和平を訴える
- ナミビア、アハティサーリ氏を悼む
- 大使会議の開催

【その他】

- ナミビア、アフリカにおける報道の自由のチャンピオンになる

【内政】

- ナンディ＝ンダイトワ副首相「部族主義はナミビアを破壊する」

ナンディ＝ンダイトワ副首相は、9月30日、オムサティ州オウタピにあるオルフコ・センターで開かれた与党 SWAPO 集会において、オムサティ州とオハングウェナ州の人々がいがみ合っていると言われていることに言及し、「人々は以前のように団結していないため、部族主義がナミビアを破壊するだろう。」と述べた。ナンディ＝ンダイトワ副首相は、SWAPO 支持者に対し、国作りのために団結するよう要請し、昨年 SWAPO 党大会において副党首選に立候補し敗れたクーゴングエルワ＝アマディーラ首相及びシフェタ環境・森林・観光大臣と、副党首に選出され

たナンディ＝ンダイトワ副首相は依然として団結していると説明した。

(2日付ナミビアン・サン紙1面、2日付ニュー・エラ紙1面)

●カンジ＝ムランギ高等教育大臣、出張旅費不正請求の疑い

汚職防止委員会（ACC）は先週、カンジ＝ムランギ高等教育大臣がその権限を乱用して同省傘下の公的機関から出張手当を要求しているとの疑惑を調査する一環として、同大臣の個人秘書を召喚した。ノア ACC 委員長は、本調査について認め、カンジ＝ムランギ大臣自身も同疑惑について答えるために召還される可能性があるとして述べた。ACC は 7 月、カンジ＝ムランギ大臣の出張に資金を提供した公的機関の各責任者に対し、宣誓供述書を提出し、省庁から提供された証拠を確認するよう召喚状を出すことを発表した。ナミビア科学技術大学（NUST）とナミビア大学（UNAM）は、カンジ＝ムランギ大臣の出張手当としてそれぞれ 14 万 600 ナミビアドル、31 万 400 ナミビアドルを支給したことを認めた。7 月にナミビアン紙は、ナミビア訓練庁（NTA）がカンジ＝ムランギ大臣のロンドン出張に 11 万 9, 500 ナミビアドル、カンジ＝ムランギ大臣の個人秘書にさらに 5 万 4, 850 ナミビアドルを支給したと報じた。さらに、ナミビア国立 UNESCO 委員会（Natcom）は、カンジ＝ムランギ大臣の米国での出張手当を、UNESCO 本部からの支払いが延期された後に支給した。カンジ＝ムランギ大臣は Natcom に手当の返済をする必要があったが、何か月経っても返済されていない。3 月に、Natcom がカンジ＝ムランギ大臣の個人銀行口座に 22 万ナミビアドルを支払い、カンジ＝ムランギ大臣が UNESCO 本部からも 1, 000 米ドル受け取っていたという記録が残っている。

(13日付ナミビアン・サン紙1・2面)

●衛生設備の不足

ヴェナーニ人民民主運動（PDM）党首は、国民議会での動議に際して、ナミビアの都市部で 14%、地方で 77%行われている野外排泄により、病気の発生等健康への深刻な影響が増大しており、ナミビア国内で衛生設備が大幅に不足していると述べた。ヴェナーニ党首は、都市・地方開発省が 2021 年までに 1 万据のトイレを地方に新規設置することを宣言したにも関わらず 980 据しか設置していないことを指摘し、全ての家庭がトイレを利用できる社会の実現を政府に提言した。同動議では、水が不足する地域でも利用できる、無水洗トイレのようなドライ衛生設備の建設も提案された。

(16日付ナミビアン・サン紙4面)

●69 万人以上が干ばつ救済を必要としている

13 日、クーゴンゲルワ＝アマディーラ首相は、オシャナ州 Uukwangula 村で開催された国際防災の日の記念式典の中で、脆弱性評価と分析に基づき、国内で 69 万 5 千人が干ばつ救済を必要としていると述べた。同式典では、受益者の情報を電子的に保存し、特定された干ばつ救済受益者へのバウチャー発行を可能にする「商品・受益者管理情報システム（CBMIS）」の立ち上げが行われた。

(16日付ナミビアン紙5面、16日付ニュー・エラ紙1面)

●8億690万ナミビアドルの不正支出

24日、van den Heever 人民民主運動（PDM）副党首は国民議会において、シミ財務大臣に対し、国庫の承認を得ずに支出された8億690万ナミビアドルについて説明するよう求めた。政府の最新の監査報告書によると、大統領府、退役軍人省、国民議会など8つの官庁・省庁が国庫の承認を得ずに8億690万ナミビアドルを支出した。この報告書は2021年4月1日から2022年3月31日までの政府帳簿を対象としている。

（25日付ナミビアン紙1面）

【経済】

●アフリカ初の公共グリーン水素ステーション建設工事を開始

Olthaver & List (O&L) グループと CMB. TECH 社のジョイントベンチャーである Cleanergy Solutions Namibia 社は先週、アフリカ初の公共グリーン水素ステーション建設工事を開始した。ウォルビスベイに設立された水素製造プラントは、太陽光エネルギーを利用して水素をオンサイトで製造する。この革新的な施設は、トラック、港湾設備、鉄道用途に水素を供給する。この水素ステーションは、来年の半ばまでには完全に稼働する予定である。このプロジェクトの不可欠な部分として、水素技術とその広範な応用について地元の人々を教育・訓練する水素アカデミーが設立される予定である。

（2日付ナミビアン・サン紙 マーケットウォッチ1面）

●燃料価格の上昇続く

9月27日（水）より、ディーゼル価格は1リットル当たり2.40ナミビアドル、ガソリン価格は1リットル当たり1.90ナミビアドルの値上げとなる。これらの値上げは、9月6日に行われたディーゼル1リットル当たり1.70ナミビアドル、ガソリン1リットル当たり1.20ナミビアドルの値上げに続くもの。アンドレアス・サイモン鉱山・エネルギー省報道官は、世界的な石油生産の大幅な減少による圧力により、燃料価格が上昇していると述べた。

（2日付ナミビアン紙11面）

●グリーン水素がEUとナミビアの関係を強化

ナミビアのグリーン水素プロジェクトが、EUとナミビアの関係強化の起爆剤となっている。この協力関係により、両国の貿易・投資機会の拡大が期待される。これは、火曜日に開催された2023年EU・ナミビアビジネスフォーラムの記者会見で、Nangula Uaandja ナミビア投資促進開発委員会CEOが述べたものである。同フォーラムのミッション副代表を務めるゴシア・ラッシュ駐ナミビアEU臨時代理大使は、フォーラムの主眼は、ナミビアとEU加盟国との貿易・投資協力の道を開くことにあると述べた。「初めてのフォーラムは、グリーンエネルギーと重要な原材料に焦点を当て、グリーン水素と重要原材料のダウンストリーム産業と付加価値活動に携わるEU企業を対象とする。」フォーラムは、「EUとナミビアのパートナーシップにおけるグリーン成長のための質の高い投資と付加価値の創造」をテーマに、10月24日から25日までベ

ルギーのブリュッセルで開催される。

(19日付ナミビアン紙 11面)

●警察、Xinfengのリチウムトラックを止めるよう要請

(1) Chirchir鉱物・エネルギー省鉱業委員長は、オマルル近郊のコヘロ (Kohero) 鉱山から未加工の破碎リチウム鉱石を輸送するXinfengやその他のトラックを停止するよう、エロンゴ州警察に要請した。10月19日付のShikongo警察長官宛ての書簡の中でChirchir委員長は、Xinfengは必要な輸送許可証とリチウムの輸出許可証を欠いていること、Xinfengはナミビア国内外に輸送するために鉱山から原料を抽出する認可を受けていないこと、Xinfengは採掘規則に違反しており原料の国内輸送には書面による承認が必要であることを、述べている。Chirchir委員長の手紙は、カリビブ警察署長、エロンゴ州知事事務所等に共有されており、警察官が採掘現場に派遣され、その指示を執行している。

(2) 6月、高等裁判所は鉱山・エネルギー省に対し、Xinfengに有利な中間命令を下した。法廷闘争の中心となったのは、同省が2022年9月6日にXinfengに交付した採掘許可証243で、同省は、同許可証を4月29日に取り消し、Xinfengに対し、全ての採掘作業を中止し、採掘現場から撤退し、5月31日までに同許可証を返却するよう指示した。アルウエンド鉱山・エネルギー大臣は、Xinfengが同許可証を不正に取得し、ライセンス取得プロセスの整合性を損ねたと主張した。Xinfengは5月8日、これらの申し立てと同大臣が一方的にライセンスを取り消す権限に異議を唱え、中間命令の緊急請求とともに審査請求を開始した。裁判所は、同大臣は、Xinfengが採掘許可申請の過程で詐欺を働いたことを一応証明したことを確認したが、一方で裁判所は同大臣がライセンスを取り消す法的権限を有していないと裁定した。Mbandeka司法長官は、同許可証に基づき、Xinfengが限られた量の鉱石の輸出できるように許可するよう勧告した。

(3) ナミビアン紙が入手した10月11日付のアルウエンド大臣宛ての書簡では、裁判所の命令に基づいて、Xinfengは採掘許可証243の下で採掘事業を継続することが許可されていると説明している。これは原則として、Xinfengが鉱物法の各条項に基づいて、採掘した鉱石をナミビア国外に搬出する許可を申請する権利があることを意味する。同法第127条1項は、鉱物を輸出するための要件を概説している。また、第90条第1項(d)に基づく許可を既に得ている採掘許可保持者は、輸出許可を申請する必要はないと規定している。第90条第1項(d)の許可がない場合に関して、Mbandeka司法長官はChirchir委員長に対し、「少なくとも55,000トンのリチウム鉱石を試験目的で輸出する許可をXinfengに与えることを提案する。また、Xinfengに対する反対申し立てを6か月間一時的に取り下げ、その間にXinfengが新たな技術報告書と作業計画を提出することを提案する。もしこの期間内にXinfengが応じなければ、反対申し立ては続行されることになる。」と、同法第127条に基づくXinfengの申請を検討するよう助言した。Mbandeka司法長官は、「閣議決定では、限定的な輸出を許可する権限を大臣に付与しているが、法律ではこの権限を委員長に与えている。このため、何らかの決定を下す前に、大臣との協議が必要になるかもしれない。」と、リチウム鉱石を含む特定の未加工重要鉱物の輸出を禁止する今年初めの閣議決定の、輸出許可の権限について疑問を投げかけ

た。

(4) Xinfengの経営陣は今日中にコメントを出す約束した。

(24日付ナミビアン紙 1・2面)

●EU、ナミビアのグリーン水素・原材料セクターに 200 億ナミビアドルを投入

EUは、ナミビアのグリーン水素と原材料セクターに 200 億ナミビアドルの巨額投資を約束した。このコミットメントは、25日にベルギーのブリュッセルで開催されたEU・ナミビアビジネスフォーラムにおいて、フォン・デア・ライエン欧州委員会委員長が発表したもの。同委員長は、再生可能エネルギーにおけるナミビアの大きな可能性を強調し、ナミビアがグリーン水素分野のリーダーであると述べた。

(27日付ナミビアン紙 5面)

【外交・対外関係】

●中国ナショナルデーレセプション 駐ナミビア中国大使の発言

9月27日に開催された中国74周年建国記念レセプションにおいて、駐ナミビア中国大使のZhao Weiping氏は、「中国はナミビアとのハイレベルの訪問とあらゆるレベルでの交流を維持し、二国間関係の青写真を共同で描き、国際問題や地域問題での意思疎通と協調を強化すると述べた。また、中国は南南協力の原則を堅持し、ナミビアからの輸入をさらに拡大し、中国企業がクリーンエネルギーを含む様々な分野でナミビアにさらに投資することを奨励することによって、中国とナミビアの経済協力を絶えず深めていくと述べた。一帯一路協力は、ナミビアに貧困緩和、雇用創出、その他の開発問題解決のための余分な道を提供し、工業化と農業近代化の実現を加速させることを目的としている。フサブ鉱山、ウォルビスベイ・コンテナターミナル、いくつかの道路建設プロジェクトなどの既存のプロジェクトは、BRIの枠組みの下で実施されている。同レセプションに出席したマトゥンドゥ国際関係・協力副大臣は、中国は独自の開発モデルを成功裏に発展させ、ナミビアのような他の発展途上国は、何百万人もの人々を貧困から脱却させるなど、こうした成果に刺激を受けていると述べた。マトゥンドゥ副大臣は、ナミビアは中国企業の投資と協力を歓迎し、中国と協力して二国間関係のさらなる発展を推し進める用意があると指摘した。

(3日付ニュー・エラ紙 6面)

●第3回 ナミビア・南ア二国間委員会の開催

13日、ガインゴブ大統領とラマポーザ大統領が共同議長となり、ウィントフックで第3回ナミビア・南ア二国間委員会が開催された。両首脳は、歴史的な連帯の絆、社会経済協力、共有文化遺産に深く根ざした両国の温かく永続的な二国間関係を育むことの重要性を強調した。両首脳はまた、国際的に承認された国境内でのイスラエルとパレスチナの平和的共存を求め、関連する国連決議の完全な履行を改めて支持した。

両首脳は、高等教育・訓練分野での協力に関する覚書(MoU)の調印を歓迎し、また、ナミビア・南ア・ビジネスフォーラムおよび展示会にて講演。国境を越えた産業開発を促進し、貿易

関係を促進するための融資制度およびビジネス協議会の設立を歓迎した。

(16日付ニュー・エラ紙1面、ナミビアン・サン紙1面、ナミビアン紙3面)

●ガインゴブ大統領、イスラエル・パレスチナ紛争の中で和平を訴える

ガインゴブ大統領は、イスラエルとパレスチナの紛争が激化する中、和平を強く訴えた。14日に発表された声明の中で、ガインゴブ大統領は、敵対行為の即時停止を求め、罪のない市民の命を守り、ガザの重要なインフラを保護する必要性を強調した。大統領は、イスラエル国防軍（IDF）がガザで行っている暴力は不釣り合いであるだけでなく、国際人道法に明らかに違反していると強調した。これらの行為は、医療従事者や重要なインフラを含む、ガザの約100万人の市民の生命と幸福を守ることに失敗していると述べた。また、占領国であるイスラエルには、ガザの住民がこれらのサービスを受けられるようにする責任があると付け加えた。ガインゴブ大統領は、ガザの罪のない市民に対する軍事攻撃はジェノサイド（大量虐殺）に相当すると主張し、国際社会が団結してこの人類の大惨事に対処するよう呼びかけた。

(16日付ニュー・エラ紙3面、19日付ナミビアン紙1面、27日付ナミビアン紙3面)

●ナミビア、アハティサーリ氏を悼む

世界中の紛争を終結させた功績でノーベル平和賞を受賞したフィンランドの元大統領、マルッティ・アハティサーリ氏が死去し、ナミビアに暗雲が立ち込めている。フィンランド大統領府が16日発表したところによると、元国連外交官のアハティサーリ氏はアルツハイマー病と闘った末、86歳で亡くなった。ここナミビアでは、アハティサーリ氏はナミビアの独立と平和への旅路に多大な影響を与えた人物として懐かしく思い出されるだろう、とガインゴブ大統領は声明の中で述べた。アハティサーリ氏とナミビアとのつながりは、彼が上院議員として国連ナミビア研究所（UNIN）の理事会に任命された70年代にさかのぼる。1978年、クルト・ヴァルトハイム国連事務総長からナミビア担当事務総長特別代表に任命された。外交官、交渉官、平和維持活動家として、アハティサーリ氏は自決と正義を求めるナミビアの人々に見事に奉仕した。ナミビア国民の想像力の象徴として、アハティサーリ氏はナミビア共和国の名誉市民として登録され、自由なナミビアの誕生における彼の並外れた功績を記念して、通りや学校に彼の名前が付けられた。

(17日付ナミビアン紙1面、17日付ニュー・エラ紙1面)

●大使会議の開催

30日、ウイントフックにて第9回大使会議オープニング式典が開催され、ガインゴブ大統領は、各大使に対し、海外の潜在的な投資家にナミビアを売り込むよう呼びかけ、ナミビアの国益と国民の幸福がすべての活動の最前線にあるよう強調した。ガインゴブ大統領はまた、アフリカのアジェンダ2063をよく理解するよう大使たちに伝え、アフリカが国際関係政策の中心であることに変わりはないと付け加えた。

(31日付ナミビアン紙3面、31日付ニュー・エラ紙1面)

【その他】

●ナミビアがアフリカにおける報道の自由のチャンピオンになる

ナミビアは、ブルキナファソのワガドゥグで開催された、「第 10 回報道の自由 国際フェスティバル」において、「アフリカにおける報道の自由 チャンピオン賞」を受賞した。「ウイントフック+30 宣言」の母国であるナミビアは、「国境なき記者団」の報道の自由指数においてアフリカでトップ、世界では 22 位という高い順位を維持し、メディアの自由を推進するための揺るぎないコミットメントが評価され、名誉ある賞を受賞した。

ペンダ情報・通信技術省次官代理は、今回の受賞は、ナミビアが表現の自由と報道の自由という理念に対して永続的に献身していることを強調するものだと述べた。

(24 日付ニュー・エラ紙 1 面)

(了)